

福岡県総合防災情報システム  
保守点検業務委託（県庁統制局等）

保守業務要領書

令和8年2月

福岡県県土整備部 河川管理課

## 河川情報システム(情報処理装置)個別点検(25-1)

No	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期					本年対象
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	
1	データの確認	観測したデータの内容を確認する。	○					●
2	定数等の確認	各種の定数(演算定数・判定用定数等)が正しい値であることを定数系を用いて確認する。					○	●
3	オフライン動作の確認	体制入力や観測局の保守・閉局のオフライン動作が正常に機能することを確認する。					○	●
4	スイッチ機能の確認	各スイッチ操作が正常に機能することを確認する。					○	●
5	電圧等の測定	チェック端子等で各部電圧等を測定し、標準値以内であることを確認する。					○	—
6	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。					○	●
7	レベル測定	送受信レベルを測定し、標準値以内であることを確認する。					○	—
8	接続部の確認	ケーブル、コネクタ、端子等を点検し、緩み等のないことを確認する。					○	●
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。 据付状態、緩み等のないことを確認する。					○	●
10	図書類・予備品等の確認	図書類が整理・保管されていること及び予備品類の保管状態、数量等を確認する。					○	●
	合計							









## ネットワーク 総合点検(1-1)

No	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期					本年対象
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	
1	運用者等からの確認及び報告等	前回作業時以降のシステム動作状況等の確認及び作業結果概要の報告等を行う。					○	—
2	ネットワークの確認	<p>・事務所と県庁の伝送路を迂回ルートに切替設定し、現用伝送路の障害時等に対応するネットワークの迂回機能等を確認する。</p> <p>①光迂回ルートへの切り替え 基線系／幹線系の光ファイバの物理的断状態を作る。</p> <p>②マイクロ迂回ルートへの切り替え 基線系／幹線系の光ファイバの物理的断状態を作る。</p> <p>※点検系統図の基本は別図「ネットワーク総合点検系統図」による。 なお、ネットワークの健全性を確認するためのデータは、広帯域データ(CCTV映像等)と狭帯域データ(河川情報等)の2種類とする。</p>					○	●
合計								







## 無停電電源装置 個別点検(13-3)

1/1

No	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期					本年対象	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月		12ヶ月
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	○						●
2	蓄電池の確認	蓄電池交換推奨時期を確認する。						○	●
3	ファンの確認	ファンの動作を確認する。						○	●
4	機器本体の清掃等	機器本体の外面の清掃及び機器取り付け状態を確認する。						○	●
5	図書類・予備品等の確認	図書類が整理、保管されていることを確認する。 予備品類の保管状況・数量等を確認する。						○	-
合計								○	-







## TM監視局装置(新スプリアス)個別点検(7-1-5)

No	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期					本年対象	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月		12ヶ月
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	○					●	
2	印字記録確認	欠測、障害記録の有無を確認する。	○					—	
3	各部電圧・電流測定	各部の電圧／電流を自蔵計器またはテスタにより測定する。					○	●	
4	送信出力確認	電流計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					○	●	
5	送信周波数確認	周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 400MHz帯: ±3×10 <sup>-6</sup> 以内					○	●	
6	最大周波数偏移確認	直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定変調周波数は、1kHz, 3kHzとする。 400MHz帯: ±2.5kHz以内						○ ●	
7	不要輻射強度確認	スペクトルアナライザで測定し基準値内であることを確認する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。 400MHz帯: 2.5 μW以下。(ただし、1Wの場合は1 μW以下)						○ ●	
8	受信入力電力確認	対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					○	●	
9	区間S/Nの確認	対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					○	●	
10	電池の確認	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。						○ ●	
11	システム機能の確認	全局観測制御確認	手動で全局観測制御を行い、全ての観測局から応答信号が正常に返送されることを確認する。					○	●
		個別観測制御確認	手動で個別観測制御を行い、観測局からの応答信号を確認する。					○	●
		プリンタ制御	全局観測や個別観測により正常に印字記録を行うことを確認する。					○	●
		中継局制御	手動で中継局の起動／停止制御及び送信機の切替制御を行い、動作が正常であることを確認する。 また、応答信号が正常に返送されることを確認する。					○	●
		その他	呼出時間間隔の変更が行えることを確認する。					○	●
12	受信データの確認	手動で個別観測制御を行い、収集したデータをセンサとのデータの照合を行う。					○	●	
13	通話機能の確認	各観測局、中継局と通話が行えることを確認する。					○	●	
14	伝搬路の見直し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					○	●	
15	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確認する。						○ ●
		給電線の確認	ケーブルの劣化、布設状態を確認する。						○ ●
		VSWR確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						○ ●
16	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						○ ●	
17	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					○	●	
18	図書類・予備品等の確認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						○ ●	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						○ ●	
合計									

## 中継装置V-I(自立型)個別点検(7-5-3)

No	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期					本年対象	
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月		12ヶ月
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧／電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					○	—	
2	スケルチ感度確認	標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					○	—	
3	受信入力電力確認	対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					○	—	
4	区間S/Nの確認	対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					○	—	
5	中継制御部動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障による自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (疑似故障を含む)					○	●	
6	外部出力部動作確認	中継局の動作状態を正常に出力することを確認する。					○	●	
7	伝搬路の見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					○	—	
8	空中線確認	外観の確認						○	—
		給電線の確認						○	—
9	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。					○	—	
10	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					○	—	
11	図書類・予備品等の確認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						○	—
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						○	—
合計									

## 有線観測装置(タイプ2)個別点検(7-4-4)

No	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期					本年対象		
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月		12ヶ月	
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧／電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					○	●		
2	送信出力確認	電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					○	—		
3	送信周波数確認	周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 400MHz帯: ±3×10 <sup>-6</sup> 以内					○	—		
4	最大周波数偏移確認	直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz, 3kHzとする。 400MHz帯: ±2.5kHz以内						○	—	
5	スプリアス輻射強度確認	スペクトルアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nf0, 1/2nf0, (n-1)f0, (n-2)f0, (n+1)f0, (n+2)f0, 2nf0, 3nf0とする。 400MHz帯: 2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						○	—	
6	受信入力電力確認	対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					○	—		
7	区間S/Nの確認	対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					○	—		
8	動作確認	観測装置を構成する各部の動作を確認する。					○	●		
9	電池の確認	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換する。						○	●	
10	伝搬路の見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					○	—		
11	空中線確認	外観の確認						○	—	
		給電線の確認							○	—
		VSWR確認							○	—
12	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						○	●	
13	水位計または雨量計等の確認	センサとA/D変換器、記録計の連動動作を確認する。 (水位は量水標と比較する。)					○	●		
		A/D変換器の動作を確認する。 000～999の各桁を10ステップ確認する。					○	—		
14	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					○	●		
15	図書類・予備品等の確認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						○	—	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						○	—	
合計										

# 雨量計 個別点検(22-1)

No	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	点検周期						本年対象
			毎日	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月	
1	時計の確認	記録と現在時刻が合っているか確認し、ずれていたら調整する。					○		-
2	各可動部の確認	目視により可動部の動作状況を確認する。 異常音がある場合は、注油する。					○		●
3	パルス積算の確認	記録計または変換器入力にパルス(短絡)を入れ、積算の確認をする。 ・100パルス与えて積算ミスがないこと及び同時にパルス出力も確認する。 0.5mm/1Pは50mm 1.0mm/1Pは100mm					○		●
4	パルス出力確認	転倒マス転倒させパルス(接点)が正常に出力されるか確認する。このとき軽く動作すること。					○		●
5	BCD出力の確認	A/Dコンバータの表示と出力値が合っていることを確認する。					○		-
6	雨量マスによる精度の確認	20mmの雨量マスにより発信器に点滴し記録値を確認する。					○		●
7	自記記録計等の確認	自記記録計等は、インクの補充、記録紙の交換をする。					○		-
8	発信器の洗浄	発信器内部の洗浄 口水器(ロード)にたまった砂や埃を取り除く。					○		●
9	ヒータの確認	ヒータの導通を確認する。 20Ω～30Ω					○		-
10	絶縁抵抗確認	ヒータ用AC100V端子とアース間の絶縁抵抗を確認する。 100Ω以上					○		-
11	検定有効期間の確認	検定有効期間(5年)以内であることを確認する。					○		●
合計									





